

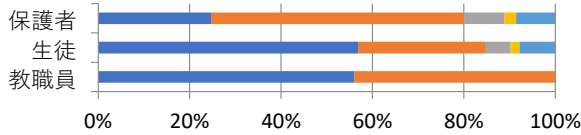
令和5年度 学 校 評 価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

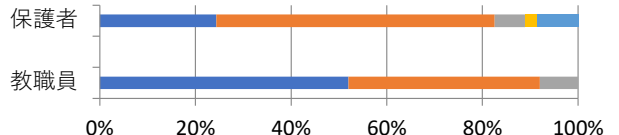
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

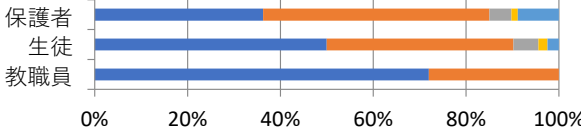


考察 「一人一人の児童生徒の尊重」については、保護者の肯定的な意見の割合が向上している。教職員の丁寧な指導の継続が成果を上げていると考えられる。「豊かな人間性」については全般的に高いが、保護者の「そう思う」の評価が教職員の半分であった。学校の更なる情報発信が必要である。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

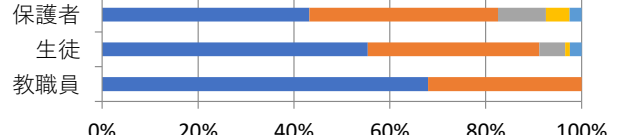
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

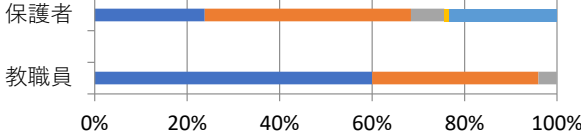


【考察】 「授業づくり」については、教職員と児童・保護者との意識差が大きい。児童が分かりやすい、楽しいと思える授業を行うために、今後更に児童の思いや願いに寄り添う必要がある。「タブレット活用」については高い数値を保っている。今後も日々の学習の中での活用を充実させていきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

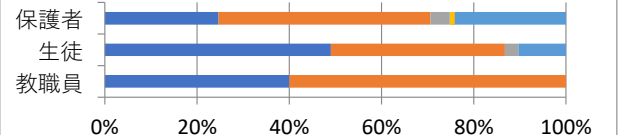
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



【考察】 「体制づくり」について肯定的な保護者の意見が約7割、教職員は9割を超える。引き続き全職員で共通理解を図りながら教育活動を行っていく。「交流学習」については、概ね肯定的な評価であった。昨年度に比べ、特に児童の評価が高かった。今後も日々授業等で交流を深め、相互理解につなげていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察 「安全教育」については、安全委員会を発起し活動を始めたことが高評価につながっていると考えられる。「家庭等との連携」については、特に今年度は、創立10周年記念式典があり、保護者や地域からの協力がたくさんあった。力西フェスタも盛大に開催され、保護者や地域の学校に対する期待の大きさを感じた。</p>	

⑤ 本校の教育

9 心豊かな子どもの育成（思い合い）	10 ともに学ぶ子どもの育成（学び合い）
子どもは、人に思いやりの気持ちを持って接していると思いますか。	子どもは、友だちや先生と関わり合いながら学んでいると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察 「思い合い」については、保護者、児童、教職員全てが肯定的にとらえており、人に思いやりの気持ちをもって接している子どもが多いと考えられる。「学び合い」については、保護者・児童・教職員いずれも昨年度より改善が見られる。児童の思いを更に受け止め、関わりを深めていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

11 自ら進んで行動する子どもの育成（志高く）	
子どもは、進んで学校行事に参加していると思いますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>考察 令和5年度になると、児童と教師の「子どもは進んで学校行事に参加していると思いますか。」への認識の差が縮まっている。参加しているという児童の割合も大幅に増加している。コロナ禍では様々な制限があったが、今年度になり他者と関わる機会が増えたことが積極性が増した大きな一つの要因と考える。</p>	

来年度の具体的な取組について

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

いじめの訴えがあった際には、管理職を含め学年部で複数での対応に当たり解決に向かう体制が取れたことは評価に値する。また、不登校傾向の児童に対しては学級の担任を中心に細かく家庭と連携した取り組みが行われており、保健室やSC、SSWなどの専門家への相談も可能となっており、保護者にもそのような相談窓口があることが浸透しつつある。今後も家庭や専門家と連携した取り組みを続けていく。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

今年度は外部から講師を招聘し、教職員の指導力向上に向けた取り組みが増えた。中堅の職員が積極的に授業を公開する場面もみられ、学校全体として若手の職員にとって学ぶ機会が多く提供される雰囲気がある。次年度も教育センターのステップアップサポーターの力を借り、職員の指導力向上に努めていく。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

支援が必要な児童が多い学級においては職員が複数で授業に入る体制を整え、共通理解を図りながら指導にあたる体制を進めてきた。また、若手の職員の悩みに教職経験豊富な職員が丁寧に対応し、日常的に様々な指導助言を行う場面も多い。今後も学校全体で教員が子どもと向き合うための体制づくりを進めていく。「交流及び共同学習」について、児童の評価が高かったことが大きい。今後も児童の目線で理解が進むよう指導を続けていく。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

安全教育については、児童目線での取り組みの一つとして安全委員会での活動が高評価であった。廊下歩行が定着しない児童が多いが、なぜ廊下歩行が必要なのかを考えさせることをはじめ、児童自らが安全な生活を意識できる取り組みを児童目線で考えられるような取り組みを安全委員会を中心に工夫していく。家庭等との連携については、PTA執行部の意識が高く学校に対する期待の大きさを感じた。今年度は長期休業中の花の水やりなどにPTAの協力をいただいたところである。今後もPTAと連絡を密にとり、協力を得ながら学校運営に取り組んでいく。

⑤本校の教育

・心豊かな子どもの育成（思い合い）

本校の教育目標に掲げている「自他を大切にする」子どもの育成を目指し、日々の学び合いの中でたくさんの経験をさせ、指導すべきところではきちんと指導し、フォローしていく指導を実践していく。

・ともに学ぶ子どもの育成（学び合い）

タブレット端末の活用と関連させ、職員の研究の視点の一つとして児童の「学び合い」が深まるような授業を今後も推進していく。

・自ら進んで行動する子どもの育成（志高く）

学校行事において全校集合しての形態で通常通り行われるようになり、PTAのイベントなどが盛大に開催されたことが大きい。次年度は学校においてもそれぞれの学年の良さが出せる活動を工夫していく。

学校関係者評価

・学校評価についても同じで今年度数値がよくなっているところは学校に保護者が来る機会が増えたことがあげられるのではないかと。また、人権について子どもたちに小さいころから学ぶ機会があると、共生社会を担う人材の育成につながると思う。いろいろな人と触れ合う機会や場を作ってほしい。

・学校の様子を見せてもらったが、子どもたちは授業をよく聞いていた。タブレットの活用も大変進んでいる。しかし、タブレットに頼るのではなく、アナログの教具を先生方が工夫をされているところがよかったし、これから

も大切にしてほしい。

・学習発表会も内容もとてもよく、子どもたちにとっても次につながる行事だった。児童の作品も丁寧に掲示してあるのが素晴らしい。

・学校外での子どもたちの様子を見守るように心がけている。登校中に声をかけてくれる児童も多くうれしく感じる。登校中にケガをした児童がいたが、一緒にいた児童や保護者の対応がとてもよかった。熊本地震で感じたが地域の協力は欠かせない。今後も大切にしてほしい。